

富山市中心市街地地区

(三期)

(富山県富山市)

- 計画期間 平成28年度～令和2年度
- 面積 436ha
- 交付対象事業費 6,512.5百万円
- 市人口 412,934人

ポイント 富山駅を中心とした南北一体的なまちづくりによる中心市街地地区全体の活性化

地区概要 公共交通の利便性向上、賑わい拠点の創出、まちなか居住の推進にて、中心市街地の活性化を図る。

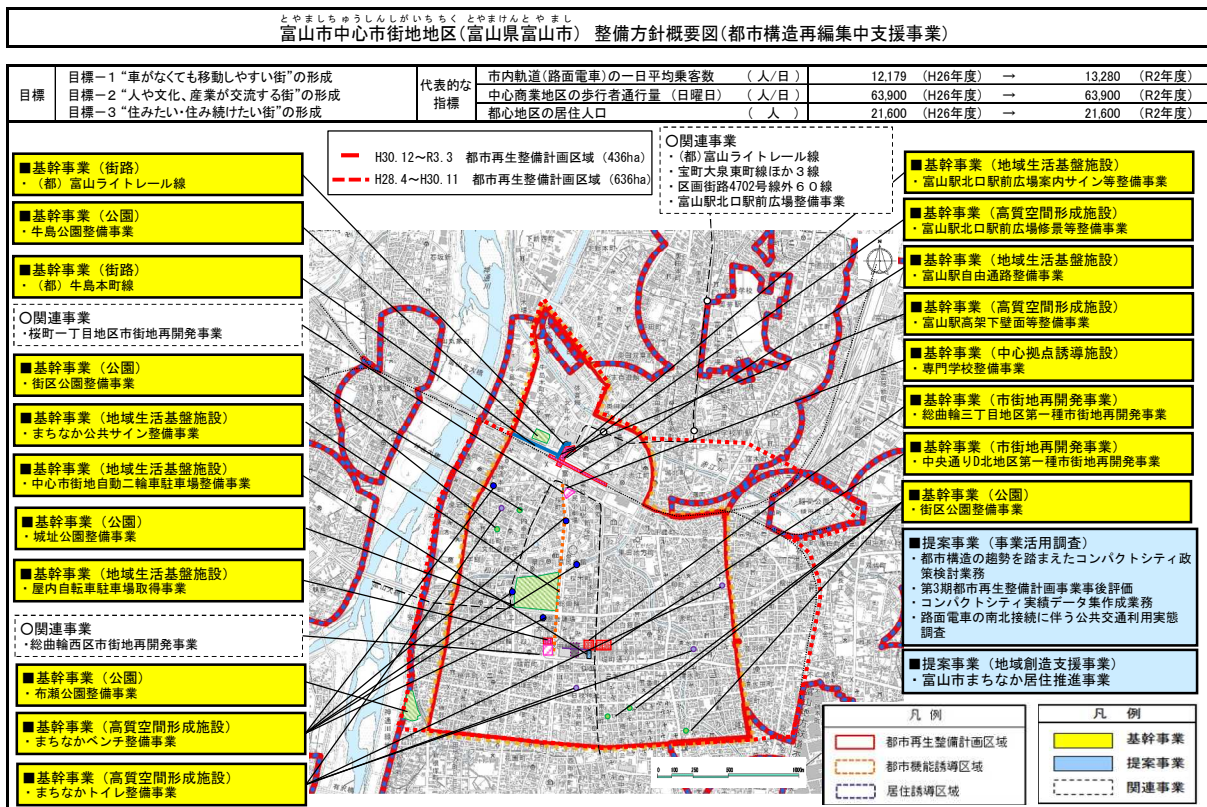
目標 “車がなくても移動しやすい街”の形成
 “人や文化、産業が交流する街”の形成
 “住みたい・住み続けたい街”の形成

指標 前計画（2期計画）での目標達成状況等を基に指標を設定した。

市内軌道（路面電車）の一日平均乗客数（人/日）	12,179(H26) → 14,422(R2)
中心市街地の歩行者通行量（人/日）	63,900(H26) → 45,219(R2)
都心地区の居住人口（人）	21,600(H26) → 21,886(R2)

事業内容 基幹事業（6,427.8百万円）→ （都）富山ライトレール線、（都）牛島本町線、城址公園（7.4ha）他7箇所、富山駅自由通路整備事業、富山駅北口駅前広場案内サイン等整備工事、富山駅高架下壁面等整備事業、まちなかベンチ整備事業、まちなかトイレ整備事業、富山駅北口駅前広場修景等整備工事、中心拠点誘導施設整備、市街地再開発事業等

提案事業（84.7百万円）→ 事業活用調査、地域創造支援事業



完了地区 富山県

地区の現況と課題

平成27年の北陸新幹線開業や中心市街地における「ガラス美術館・図書館」の再開発事業等により、一定程度の賑わいは回復されたが、依然として、駅北側の富山ライトレールと駅南側の市内電車の南北接続など、富山駅を中心とした南北一体的なまちづくりによる中心市街地地区全体の活性化が課題となっている。

併せて、既存の都市施設のさらなる連携や活用、賑わい向上や人口定着を図りながら、誰もが暮らしやすい持続可能なコンパクトな都市への再構築を図ることが課題となっている。



中心商店街の現状



ガラス美術館・図書館

計画策定プロセス

庁内検討の実施

まちづくり交付金を活用した事業を実施している企画管理・商工労働・農林水産・都市整備・建設・教育部局等による庁内検討を実施し、現行計画の効果等を把握すると共に、次期計画の策定に向けた意見集約を実施している。

都市再生整備計画事後評価委員会

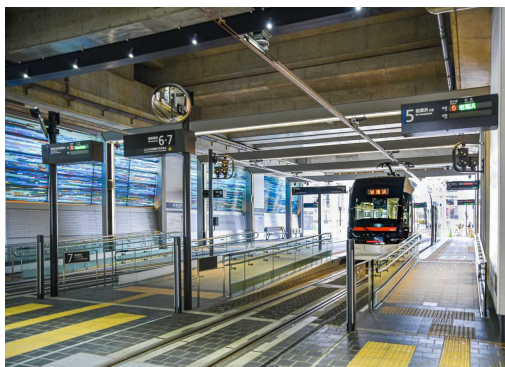
これまでの都市再生整備計画の実施過程、課題の達成状況をもとに、今後のまちづくり方策について有識者、経済団体代表者、交通事業者による意見集約を行った。



専門学校整備事業



富山駅南北自由通路



富山駅高架下壁面等整備事業



総曲輪三丁目地区市街地再開発事業